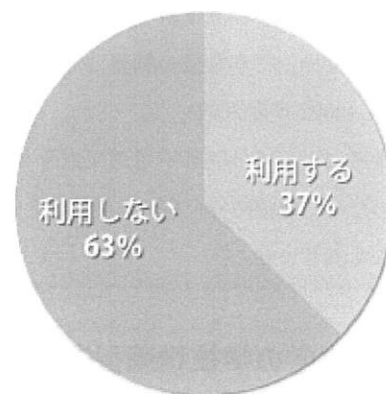


学とは異なり、複数ある入試方式のひとつに英語資格・検定試験の成績を出願要件とする入試方式を設定する大学も少なくありません。英語資格・検定試験の成績があれば受験機会は広がります。

英語資格・検定資格の主なパターン

私立大学一般選抜での活用状況

出願要件	可否判定利用	
	点数化	試験免除
基準を満たす成績を所帯していることが出願の要件となっているもの	成績に応じて、個別試験や共通テストの特定科目に置き換える、満点とみなす、加点するなど点数化して活用するもの	基準を満たす成績を取得していることで、個別試験や共通テストの特定科目の受験が免除されるもの



※2022 年度入試のもの（河合塾調べ）

7. 拡大する学校推薦型選抜と総合型選抜

「**学校推薦型選抜**」は一般選抜に次ぐ大学入試の柱の一つです。

一般選抜との一番大きな違いは、**出身高校長の推薦を受けないと出願できない**、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、誰もが出願できる入試というわけではありません。

学校推薦型選抜は、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「**公募制**」と「**指定校制**」の2タイプに分かれます。「**公募制**」は、大学の出願条件をクリアし、出身高校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「**指定校制**」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜ですが、私立大学が中心となっており、国公立大学ではほとんど行われていません。

また、一般選抜とは違い多くの大学では、「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」**専願制**の入試となっています（近年、他大学との併願が可能な併願制も増えてきています）。

学校推薦型選抜を考える場合は、**出願するうえで制約があることと、原則第1志望校に限った入試である**ことを理解しておきましょう。

国公立大学の学校推薦型選抜

国公立大学では全体の9割以上の大学が学校推薦型選抜を実施しています。近年、東京大学や京都大学などで推薦型の入試を実施するなど、難関国立大学でも広がりをみせています。ただし、**国公立大学の学校推薦型選抜**は、私立大学に比べて**募集人員が少なく、出願条件のうち「学習成績の状況 4.0 以上」など厳しい成績基準を設けている**大学があるほか、1 高校からの推薦人数が制限される場合は、出願前に学内で選抜が行われるケースも少なくありません。また、国公立大学の場合は、共通テストを課す場合と課さない場合の2タイプに大別され、その入試日程も大きく異なります。

2021 年度入試からは、小論文など受験者自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法のほか、プレゼンテーション、口頭試問、実技、教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績、共通テストなど、学力を確認する評価を実施することが必須となりました。国公立大学では共通テストを課す大学

が多くなっています。また「面接」「小論文」を課す大学は多く、口頭試問を含んだ面接や学科に関連した専門的知識を要する小論文が課されることも珍しくありません。

コラム～国立大学の医学科で「地域枠」推薦入試が拡大～

国公立大学の医学科でも多くの大学で学校推薦型選抜が行われます。なかでも特徴的なのが、出身地域に制限を設ける「地元出身枠」や卒業後の勤務地等に制限を設ける「地域枠」の学校推薦型選抜で、全 50 大学のうち 39 大学で実施されています（2022 年度入試）。

地域によっては医師不足が深刻となっており、将来地元に残って活躍する医師の育成が地域の課題となっているからです。そのため、地域枠で合格・入学すると、卒業後に特定の地域で医師として働くことを条件に奨学金が受給できるといった例も少なくありません。

私立大学の学校推薦型選抜

私立大学の学校推薦型選抜は、**入学者比率が 40%以上**を占めています。

私立大学の出願要件は、国公立大学ほど厳しくなく、なかには成績基準を設けない大学もあます。選抜方法は、小論文や適性検査、面接、基礎学力試験、調査書等の書類審査をさまざまに組み合わせて選考されています。近年は適性検査や基礎学力検査といった名目で学力を測る試験が行われている大学も目立っています。

さまざまなタイプの学校推薦型選抜

私立大学の学校推薦型選抜では、一般選抜と同様に多様な選抜が実施されており、「**スポーツ推薦**」「**有資格者推薦**」「**課外活動推薦**」などがあります。「**スポーツ推薦**」は、その名称の通りスポーツに秀でた学生の獲得を目的とした選抜で、出願にあたっては高校時代の競技成績が基準となります。「**有資格者推薦**」は、実用英語技能検定（英検[®]）やケンブリッジ英語検定といった民間の英語資格・検定試験や、日商簿記などの技能をもつ受験生を優遇する選抜です。「**課外活動推薦**」は、生徒会活動や部活動、社会・地域奉仕活動などで活躍した人を対象にした選抜となっており、コンクールや競技大会での秀でた実績を出願要件とする大学も少なくありません。

コラム～「学校成績の状況」と「学習成績概評」～

「**学校成績の状況**」は履修した全科目の評定を平均したもので、今までは「**評定平均値**」と呼ばれていました。この「**学校成績の状況**」をもとに、**高校3年間の成績**をA～Eの5段階で表したものが「**学習成績概評**」です。「**学校成績の状況**」と「**学習成績概評**」の関係は、**評定平均値 5.0～4.3 がA、4.2～3.5 がB、3.4～2.7 がC、2.6～1.9 がD、1.8 以下がE**となります。なお、Aのなかでも特に学校長が優秀と認めた生徒には**Ⓐ**を評することができます。**国公立大学の学校推薦型選抜のなかには出願条件としてⒶの者に限定しているところもあります。**

第3の入試～総合型選抜

総合型選抜とは、**エントリーシート**などの受験生からの提出書類のほか、**面接や論文、プレゼンテーション**などを課し、**受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式**です。他の入試方式と比べると、「**高い学習意欲**」「**学びへの明確な目的意識**」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。**出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。**

2021 年度入試からは、学校推薦型選抜同様に、各大学が実施する評価方法に、共通テストを含む教科・

科目に係るテストや小論文、プレゼンテーションなど、学力を確認する評価方法を活用することが必須となりました。

決して易しくはない国公立大学のAO入試

国公立大学の総合型選抜では、出願9～10月、合格発表11～12月上旬といった入試日程が一般的です。出願条件は、「学習成績の状況」の成績基準がなかったり、高卒生でも出願できるなど、学校推薦型選抜より緩やかな場合が多いです。ただし、大学によっては「英検[®]などの有資格者」「全国コンテストの上位入賞者」といった条件が加わっていることもあります。

選考方法は1次：書類審査、2次：面接（プレゼンテーションも含む）・小論文といった選抜型タイプが一般的です。このほか、セミナーやスクーリングなどに出席してレポートを提出させるといったものもあります。また、基礎学力を測るために、共通テストを課す大学は増加傾向にあります。

総合型選抜は一般選抜や学校推薦型選抜に比べると、大学も選抜に時間をかけており、受験生側にも労力がかかります。また、出願時に提出するものも多岐にわたる場合が多く、事前準備が他の選抜以上に多いことも特徴です。受験を考える人は早い時期からの対策が必要となります。

私立大学のAO入試は対話型重視が多い

私立大学の総合型選抜の選抜方法はバラエティーに富んでいて、同じ総合型選抜という名前でも大学によりかなり違いがあります。難関大学では、国公立大学と同様に1次：書類審査、2次：小論文・面接というパターンが一般的で、加えてセミナーやスクーリングの実施、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを組み合わせ、時間をかけた選抜方法を取り入れています。最近では、オンライン形式で選抜を実施する大学もみられます。書類審査は厳しく、出願者の多くがここでふるい落とされます。出願要件も全体的に厳しく、学力や傑出した能力が重視されるケースも多くみられます。

一方、多くの大学で行われているのが対話型の総合型選抜です。エントリー後、事前面談、予備面談なども含めて複数回面談を行い、出願許可されると合格内定を得ることができます。このタイプの総合型選抜は、大学・学部への適性や学ぶ意欲がより一層重視されます。

総合型選抜は早期に合格が決まるため、早い時期に志望校を決定しなければなりません。また、その入試の趣旨から出願校＝第1志望校となりますので、安易な受験は禁物です。自分の進路・適性をしっかりと考えたうえで受験しましょう。

◎総合型選抜の主なパターン

「選抜型」

国公立大学や難関大学に多いパターン。選考方法は、小論文やレポートを課したり、長文の志望理由書や自己推薦書などを課してその内容をもとに面接するなど、受験生の負担も大きい。

「対話型」

私立大学に多いパターン。エントリーや正式出願を通して複数回の面談・面接を行い、学力面より人物評価や意欲、志望動機などを重視する。

「実技・体験型」

入試プログラムの中に、模擬授業やセミナー、実験などが含まれ、その参加が出願条件となる。それにともない、レポート・課題提出などを行う。

